

ぜんたい

令和6年 7月
第73号



全国内水面漁業協同組合連合会設立 70 周年記念式典

漁業者（会員・漁連）の傘下漁協組合員 年間契約「四回発行」定価三〇〇円（本体二七八円）送料サービス
 漁業者以外の購読者 年間契約「四回発行」定価三二〇円（本体二九〇円）送料サービス
 単品 定価七五〇円（本体六八二円）送料別
 定価 定価八〇〇円（本体七二八円）送料別

全内で釣り人向けの普及啓発用パンフレットを作成しています

申込は、各県漁連でのとりまとめをおねがひしています。その都度で申込が可能で、100枚からご希望のクレジットで作成できます。詳しくはお問い合わせください。



パンフレットA4両面

刊行物案内



「わかさぎを読む」

増田賢嗣(著/文！編集)
 浅見大樹(著/文) 甲斐嘉晃(著/文)
 久下敏宏(著/文) 真野修一(著/文)
 高橋進吾(著/文) 鳴海一侑(著/文)
 高田芳博(著/文) 高濱優太(著/文)
 鈴木紘子(著/文) 本多 聡(著/文)
 岡崎 巧(著/文) 松澤 峻(著/文)
 井出充彦(著/文) 福井克也(著/文)
 明田川貴子(著/文) 柿沼清英(著/文)

わかさぎの生態、歴史、文化や釣り、そして各地のワカサギの状況について知らない人にもわかりやすく紹介した1冊です。

定価：2,800円＋税 B5変型判223ページ
 2024年4月刊行

問い合わせ先：株式会社 生物研究社
 〒108-0073東京都港区三田2-13-9-201
 電話：03-6435-1263

CONTENTS

巻頭言	2	我が水産多面的活動(大内山川の声)	18
全国内水面漁業協同組合連合会設立 70 周年記念式典開催	4	やるぞ！内水面(水産庁 栽培養殖課 内水面漁業振興室長)	20
令和 6 年度通常総会	6	内水面漁協(第 43 回)	24
第 12 回全国内水面漁業振興功績者表彰	6	愛しきアユ(第 46 回)	25
全内漁連開催の各会議について		水産多面的機能発揮対策支援事業	26
監事会、総務委員会、理事会を開催	7	ウナギ生息環境改善支援事業	26
ブロック会議を開催	7	日光支所から	27
外来魚対策事業の第 1 回検討委員会を開催	8	カワウの全国一斉対策の取り組みについて(第 11 回)	28
カワウ対策の第 1 回検討委員会を開催	8	全国内水面漁連の新事務体制について	29
資源回復のための種苗育成・放流手法		春の叙勲	29
検討事業(アユ)第 1 回検討委員会を開催	9	新会長の紹介	29
令和 6 年度第 1 回全国事務担当者研修会	10	業務日誌	30
内水面漁業振興議員連盟 総会	12	職員のつばやき	31
新任挨拶：サケ・アユ・ウナギと続けてきました	14	新聞記事から	31
退職にあたって	15	編集後記	31
我が漁連(山形県内水面漁業協同組合連合会)	16		

全国内水面漁業協同組合連合会

機関誌 ぜんたい 第73号

全国内水面漁業協同組合連合会機関誌
 令和6年7月発行

発行人：全国内水面漁業協同組合連合会
 代表理事長 谷 公一

編 集：本所 機関誌編集委員会

発行所：全国内水面漁業協同組合連合会
 〒101-0044
 東京都千代田区鍛冶町1丁目10番4号 丸石ビル4階
 TEL：03-6260-9595 FAX：03-5296-2030
 ホームページ：https://www.naisuimen.or.jp

印 刷：鵜川印刷株式会社
 〒923-0053 石川県小松市河田町丁33番地

水産多面的機能発揮対策支援事業

水産多面的機能発揮対策支援事業は、令和6年度においても全内と全国漁業協同組合連合会（以下、全漁連）、（公社）全国豊かな海づくり推進協会（以下、海づくり協会）、（一社）水産土木建設技術センター、（株）水士舎の5社が、水産庁から委託を受け協働で実施することになった。

事業内容について、講習会やシンポジウム（事例報告会）の開催、個別サポート等の実施といった活動組織をサポートする枠組みには変わりはありませんが、6年度は水産多面的機能発揮対策事業の活動項目のうち「藻場の保全」に注力するという水産庁の方針により、講習会とシンポジウムは「藻場の保全」を主体にしたものになります。

●講習会

講習会は、昨年度までと同じく海づくり協会の主催で開催します。昨年度までは、年3回の開催のうち2回において内水面部会を開催していましたが、6年度は9月4・5日に東京都内で開催される1回のみとなり、ここでは「藻場の保全」と「干潟の保全」の2部会が開催され、「内水面の生態系の維持・保全」や「海の安全確保」といった他の部会は開催されません。翌6日には「藻場の保全」に取り組んでいる神奈川県活動組織を視察する予定になっています。

「藻場の保全」、「干潟の保全」以外の部会が開催されないことの補填として、地域協議会の要望による現地のニーズに合った講習会を数カ所程度で開催することになっています。本件については、海づくり協会から全

国の地域協議会に宛てて5月に通知されており、地域協議会から活動組織に周知が図られているものと思われます。

●シンポジウム（事例報告会）

6年度のシンポジウムは、開催日時と内容は未定ですが、来年度の2月に首都圏において開催する予定です。水産庁主催、全漁連、海づくり協会、全内の主管で開催することはこれまでどおりですが、内容は「藻場の保全」を主体としたものになる予定で、プログラム、事例報告を行う活動組織の選定、「藻場の保全」以外の取り扱い等については、今後、関係者で協議のうえ決定されます。

開催日時や会場、プログラムは、決定したい活動組織や地域協議会等を始め、ホームページ（ひとうみ.jp）等を通じて広く参加を呼びかけることとしています。なお、開催にあたっては、これまでと同様にwebからのライブ配信も行う予定です。

●内水面の技術サポート及び専門家によるヒアリング
活動組織の要望に応じてサポート専門家を派遣する技術サポートは、内水面においてもこれまでどおり継続して実施します。専門家の派遣を希望される活動組織におかれましては、都道府県の地域協議会を通じてお申し込みください。

なお、5年度の活動に対する自己評価の結果に基づき、専門家を活動組織に派遣しヒアリングを行うほか、全国の活動組織の取組を「ひとづみ.jp」で紹介するためのヒアリングも実施する予定です。

日光支所から



湯滝での釣り



湯ノ湖での船釣り

湯ノ湖・湯川解禁

令和6年5月1日午前5時、打ち上げ花火の合図と同時に湯ノ湖・湯川の釣りが解禁を迎え、釣り大会「解禁トラウトフィッシングフェスタ」を行いました。

当日は朝から鈍より曇った天候でしたが、寒さは例年に比べると穏やかでした。湯ノ湖の「解禁トラウトフィッシングフェスタ」では、検量時間になると雨が降り出し、表彰式には土砂降りになってしまいましたが、70cmを超える大型ニジマスや30cmを超えるヒメマスが釣り上げられ、たいへん盛り上がり大会となりました。また、今年はホンマスが解禁から好調で、34・8cmのホンマスが特別賞となりました。

ゴールデンウィーク期間中の5月3日から6日までは連日放流を行い、多くの釣魚者や家族連れが奥日光湯ノ湖でトラウトフィッシングを楽しんでいました。

湯ノ湖では、8月と9月に釣り大会を実施、年間トラウトランキングも毎日実施します。また、毎週土、日曜日と



緊張の面持ちで臨む
キッズ部門優勝者



計測に並ぶ大会参加者



土砂降りになった表彰式

祭日にニジマスの成魚放流を行っており、放流時はお子様でも比較的簡単に釣る事が出来ます。

ウナギ生息環境改善支援事業

本誌72号26頁で掲載した標記事業の「表2これまでに本事業で石倉カゴ増殖礁等を設置した河川湖沼の数」数字について訂正がありました。左記に訂正後の最終数の表を掲載いたします。

【訂正箇所】タイプ…河川湖沼数を「うち数」

平成30年…都道府県数12↓7 河川12↓11
令和2年…河川12↓11
令和3年…都道府県数5↓7
【同内容】本誌68号・64号・60号・56号の同表

最終：これまでに本事業で石倉カゴ増殖礁等を設置した河川湖沼の数

年度	都道府県数	河川	湖沼	箇所数	タイプ(A:規格統一型、B:自由規格型)
平成28	11	10	1	11	A:10河川1湖沼
29	8	8	0	8	A:8河川(うち簡易魚道1河川)
30	7	11	1	13	A:5河川1湖沼、B:7河川(うち簡易魚道1河川)
令和元	4	11	0	14	A:6河川、B:6河川(うち簡易魚道1河川)
2	5	11	0	13	A:6河川、B:6河川(うち簡易魚道1河川)
3	7	12	0	12	A:8河川、B:4河川(うち簡易魚道1河川)
4	7	12	0	13	A:7河川、B:6河川
5	6	10	0	11	A:5河川、B:6河川

注)平成30年度以降は、同じ県内に規格統一型と自由規格型の両方を設置した事例や、同じ河川内の複数箇所に石倉カゴ増殖礁を設置した事例があるため、上記の表では設置した河川湖沼数、箇所数、タイプの河川湖沼数の数が合致しない。

なお本事業は、平成28年度から実施しており、8年目となる令和5年度で終了となりました。

上皇ご夫妻、23年ぶりの日光訪問

令和6年5月28日から31日まで、上皇ご夫妻が栃木県日光市を私的に旅行され、3日目の午後に奥日光に赴かれました。上皇さまが栃木県日光市に疎開中、戦局悪化のため田母沢御用邸から奥日光湯元のホテルへと移られ、そのホテルが湯ノ湖のほとりにあったとのこと。

奥日光の自然に関する案内や展示を行う日光湯元ビジターセンターをご訪問されたあと、湯ノ湖を散策されました。湯ノ湖周辺では、お二人の奉迎のため大勢の人が集まり、列をなしていました。